

# 平成29年度事業報告

- I 事業別報告
- II 機関運営報告
- III 地区活動報告

※表記について

- 1 「全国高等学校 PTA 連合会」を「全国高 P 連」と略記する。
- 2 「全国高等学校 PTA 連合会大会」を「全国大会」と略記する。

## I 事業別報告

### 1 高等学校 PTA 活動の質的向上と情報共有に資する研究大会、講演会、研修会等の開催

#### (1) 第67回全国大会静岡大会

第67回全国高等学校 PTA 連合会大会静岡大会を静岡県公立高等学校 PTA 連合会の主管により実施した。

- ・テーマ : 「有徳の人」づくり (サブテーマ「～未来のために行動する「一人」を育てよう～)
- ・日程 : 平成29年8月23日(水) 大会前日会議、レセプション  
平成29年8月24日(木) 開会式・表彰式、基調講演、分科会  
平成29年8月25日(金) 記念講演、閉会式
- ・開催地 : 主会場: 袋井市/小笠山総合運動公園エコパ・エコパアリーナ
- ・基調講演: 小和田哲男 氏 (静岡大学名誉教授)  
「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」
- ・記念講演: 笥利夫 氏 (俳 優)  
「笥利夫 これがオレの生きざまだ!」
- ・分科会 : 全国高 P 連研究発表 ～ネットトラブルの予防と対策～  
第1分科会「学校教育と PTA」～「有徳の人」を育てる学びの場の充実～  
第2分科会「進路指導と PTA」～「有徳の人」を育てる希望進路の実現～  
第3分科会「生徒指導と PTA」～「有徳の人」を育てる「命を守る教育」の推進～  
第4分科会「家庭教育と PTA」～「有徳の人」を育てる家庭教育の充実～  
特別第1分科会「防災教育・減災教育」  
～有徳の人」を育てる防災・減災教育の推進～  
特別第2分科会「グローバル教育とコミュニケーション能力」  
～有徳の人」を育てるグローバル教育とコミュニケーション能力の育成～

イ 総参加人数 9,388 名、参加校 2,425 校

|          |             |       |         |       |
|----------|-------------|-------|---------|-------|
| 分科会別参加人数 | 全国高 P 連研究発表 | 2,854 | 第1分科会   | 1,208 |
|          | 第2分科会       | 1,174 | 第3分科会   | 1,547 |
|          | 第4分科会       | 974   | 特別第1分科会 | 888   |
|          | 特別第2分科会     | 743   |         |       |

(静岡大会データ報告より)

ロ PTA スタッフ 1,465 名と業者スタッフとの連携によりスムーズな進行ができ、全日程、無事終了することができた。

ハ「全国大会の在り方の見直し」を行い、新たな「全国大会開催ガイドライン」を策定した。第70回全国大会島根大会から新・開催ガイドラインに沿って実施することになった。また、第69回全国大会京都大会は新・開催ガイドラインでの実施に向けた移行大会となる。

## (2) 地区大会

各地区高等学校 PTA 連合会の研究大会を下表のとおり共催した。

| 地 区    | 開 催 日            | 場 所     |
|--------|------------------|---------|
| 北海道地区  | 6月10日(土) 11日(日)  | 北海道滝川市  |
| 東北地区   | 7月 6日(木) 7日(金)   | 岩手県盛岡市  |
| 関東地区   | 7月 7日(金) 8日(土)   | 神奈川県横浜市 |
| 東京地区   | 7月 2日(日)         | 東京都渋谷区  |
| 北信越地区  | 7月 7日(金) 8日(土)   | 富山県富山市  |
| 東海地区   | 6月16日(金)         | 三重県津市   |
| 近畿地区   | 6月30日(金) 7月1日(土) | 滋賀県米原市  |
| 中国四国地区 | 7月14日(金)         | 山口県下関市  |
| 九州地区   | 6月15日(木) 16日(金)  | 熊本県熊本市  |

## (3) 全国会長・事務局長研修会

会員 50 団体の会長・事務局長の情報共有と研鑽のため研修会を開催した。

- ・第1回 平成29年10月15日(日) / ホテルルビノ京都堀川

講演 「キャリア教育について考える」

大谷大学文学部教授 荒瀬 克己 氏

- ・第2回 平成30年2月4日(日) / 東京ガーデンパレス

報告 「第8回高校生と保護者の進路に関する意識調査」の結果について

(株) リクルートマーケティング パートナーズ

まなび事業本部 進学総研 G

キャリアガイダンス編集部編集長 山下真司 氏

## 2 高等学校PTA活動に関する調査研究

- ・現行の調査統計システムについては調査広報委員会を中心に運用を検討、会員の声を集約してきたが、大変使いにくく、運用、維持、改修に多大な費用が発生するため、このシステムの使用を取りやめた。
  - ・調査広報委員会より新しいフリーのツールを使ったシステム (Google) 使用『フォーム』の提案があり、LINE@のアンケートシステムを試用した後、順次実施していくこととなった。
- 調査広報委員会、理事会でこのシステムを試行した。次年度より本格実施する。

## 3 青少年の健全育成および生涯学習に資する情報の収集と提供

### (1) 「自転車、バイク、歩行者のマナーアップ運動」

イ ツイッター広告を利用した自転車安全利用の啓発活動

関係諸機関と連携して、高校生の自転車事故防止のツイッター広告を10月、11月、3月の  
時限キャンペーンとして3回実施した。

新たに「イヤホン・ヘッドホンで音楽を聴きながらの運転禁止」を加えた。

[広告別の結果]

〈イヤホン・ヘッドホン・聴きながら禁止〉

広告表示回数 4,780,636 広告クリック数 90,225

いいね数 6,005 フォロー数 300 リツイート数 7,624

〈並進禁止〉

広告表示回数 840,374 広告クリック数 15,578

いいね数 1,724 フォロー数 172 リツイート数 2,212

(夜間ライト点灯)

広告表示回数 1,639,031 広告クリック数 28,237

いいね数 1,825 フォロー数 127 リツイート数 2,158

(イ) 出稿費減により広告露出数は減少したが、クリック数、いいね数などのユーザーからのリアクション率は昨年よりも高かった。

(ロ) 「イヤホン・ヘッドフォン聴きながらの自転車運転は道路交通法違反」のリアクションが多く、関心を高めることができた。

(ハ) ツイッターの特性上、東京近郊、大阪近郊の首都圏のユーザーが多く数値が高かった。

ロ 「バイクの3ない運動」について

昨年度より継続して、健全育成委員会を中心に全国の県連からの意見をまとめ、理事会決議を経て、「今後のバイクの3ない運動について」の方針の宣言文を全国高P連全国大会静岡大会にて誌上発表した。

#### ～自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動～

現在、交通事故によって多くの子どもたちの「大切な命」が失われています。

そのため本会では、子どもたちが交通事故の「被害者にならない、加害者にさせない」ことを目的に、地域社会と共に具体的な交通安全指導を推進する必要があると考え、「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動」を各機関・団体等と連携・協力して、交通安全教育の充実のために効果的な活動を推進しています。

さらに本会では高校生がもしも交通事故等の加害者になったときの経済的負担を補償するため「全国高P連賠償責任補償制度」を運営しています。

#### 今後の「バイクの3ない運動」の展開について

全国高等学校PTA連合会では、昭和57年より「バイクの3ない運動（免許は取らない・乗らない・買わない）」を通して、35年にわたり子供たちの「大切な命」を守り続け大きな成果をあげてきましたが、今後については地域の実情や昨今の社会情勢等の変化に鑑み、各都道府県市高等学校PTA連合会がそれぞれの立場で、「バイクの3ない運動」を独自に展開することとします。

## (2) インターネットリテラシー向上のための取組み

イ 保護者啓発の一環として協力した安心ネットづくり促進協議会（安心協）が主催するILAS\*テスト（全国9地区9校）及び総務省ILASテスト（全国8地区24校）を実施した。調査結果のデータを広く活用し、次年度のインターネットリテラシー向上の取組に活用する予定である。

\*ILAS...「Internet Literacy Assessment Indicator for Student」

（青少年のインターネットと利用理解度テスト）

ロ 「春のあんしんネット・新学期一斉行動」等、内閣府、総務省、経済産業省、警察庁、消費者庁、法務省、文部科学省、安心ネットづくり促進協議会、全携協（安心ショップ）等と協力して、スマートフォン等の安心・安全な利用に関し、青少年や保護者の意識を高める啓発活動を行った。

ハ 地区単位・都道府県市単位での研修会を通じて広く啓発に努めた。

## (3) 薬物乱用防止パンフレットの制作および配布

専門委員会として「薬物乱用防止パンフレット編集委員会」を編成し、保護者向け啓発資料として「薬物乱用防止パンフレット」を作成し全国に配布した。本事業は年度ごとに財団法人日本宝くじ協

会に申請を行って助成金を受けているもので、例年同様に約 1500 万円の事業規模で実施した。

《 薬物乱用防止パンフレット編集委員会 》

|       |   |
|-------|---|
| 北垣 邦彦 | 東京薬科大学薬学部教授（薬学博士）                                 |
| 嶋根 卓也 | 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部<br>心理社会研究室長（医学博士） |
| 富澤 正夫 | 公益財団法人麻薬覚せい剤乱用防止センター専務理事                          |
| 小出 彰宏 | 文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官（薬学博士）               |
| 新井田 寛 | 本会理事、健全育成委員長                                      |
| 高田 教子 | 本会健全育成副委員長  |

《 事業概要 》

- ・発行部数……110 万部
- ・配布対象……加盟校新入生保護者 その他
- ・主な改訂……①「インターネットの過剰使用と薬物乱用の関わり」等、新たな防止視点を掲載した。  
②表紙・イラストなどインターネット利用と関連の深いデザインにした。

(4) 青少年の健全育成に係る事業助成

各都道府県・市連合会が地域の実情に応じて実施する「高校生のマナーアップ運動に関する事業（街頭活動、啓発活動）」をはじめ、青少年の健全育成に係る事業（研修会、講演会等）に対して助成金を支給した。

健全育成に係る助成金交付団体

秋田県高P連、福島県高P連、茨城県高P連、群馬県高P連、千葉県高P連、栃木県高P連  
神奈川県高P連、滋賀県高P連、奈良県高P連、和歌山県高P連、広島県高P連、福岡県高P連

支給額総計 約155万円

(5) 薬物乱用防止研修会の実施

全国高 P 連発行「保護者向け薬物乱用防止パンフレット」を基に都道府県市単位、各学校単位で様々な薬物乱用防止研修会・学習会が実施された。

(6) 全国大会での研究発表

健全育成委員会の担当により、全国大会・静岡大会にて「ILAS テスト」結果を反映した「ネットトラブルの予防と対策」をテーマに研究発表を行った。約 2,900 名参加、今日の問題であり概ね好評であった。

テーマ「ネットトラブルの予防と対策」

基調講演 (株) KDDI 総合研究所 教育・医療 ICT グループ 研究主査

齋藤長行氏

パネルディスカッション

コーディネーター

塩田真吾 氏（静岡大学教育学部 准教授）

パネリスト

太田好洋 氏（静岡県立磐田南高等学校 PTA 会長）

先生 弾 さん（静岡市立清水桜が丘高等学校 3 年生）

柳本直輝 氏（静岡市立清水桜が丘高等学校教諭）

徳光 歩 氏（総務省総合通信基盤局電気通信事業 消費者行政第一課 課長）

齋藤 長行氏

#### (7) 「第8回高校生と保護者の進路に関する意識調査」

進路対策委員会と(株)リクルートマーケティングパートナーズと合同で高校2年生とその保護者を対象に質問用紙による自記式調査を実施した。

- ・調査実施校…全国9地区各3校 計27校
- ・実施期間 …平成29年10月
- ・主な内容

親子コミュニケーションの実態、進路・将来にまつわる考え(将来就きたい・就いてほしい職業、奨学金制度、家庭の経済事情など)、進路にまつわる期待と不安、保護者の動き、学校での教育、保護者の動き、学校での教育、家庭での教育、学校への要望、グローバル社会・AIの普及発展に対する高校生と保護者の意識

イ 今回は「AIが高校生の進路に及ぼす影響」等が質問事項に入っているのが特徴である。

ロ 調査報告書は全国高P連ホームページ、リクルート進学総研ホームページに掲載した。

ハ 「キャリアガイダンス Vol.421 2018年2月 『人生100年時代の高校生と保護者の未来意識』

～高校生と保護者は未来に何を思い、どう向かっていこうとしているのか～」に調査報告が特集記事として掲載された。

#### (8) 教育課題に関する調査研究

イ 今後の全国大会分科会で取り上げる「今日的課題」について各委員会で討議した。

ロ 調査広報委員会で新・調査統計システムを構築、PTA基礎項目についてアンケートを試験実施した。

### 4 広報紙等の刊行

#### (1) 会報の発行

調査広報委員会の企画編集により第86号(平成29年10月20日)、第87号(平成30年4月15日)を発行した。

- イ 第86号 (定時総会関係、全国大会静岡大会報告、地区大会報告、組織概要など)
- ロ 第87号 (地区活動報告、講演会記録、全国大会佐賀大会案内など)

#### (2) ホームページの充実

29年10月より本会ホームページを全面リニューアルした。

- ・NEWSや資料BOXなどの内容が充実した。
- ・全国高P連賠償責任補償制度のPR効果が上がっている
- ・HPを通しての情報交換により他の社会教育関係機関との連携が進んだ。

### 5 顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰

#### (1) 全国高P連としての表彰

第67回全国大会静岡大会において、本会表彰規程に基づき、個人79名、団体87、役員43名を表彰した。感謝状を1名1団体に贈った。

#### (2) 文部科学大臣による表彰事務協力

第67回全国大会静岡大会において、林芳正文部科学大臣による表彰の運営に協力した。

### 6 社会環境(教育環境)整備ならびに家庭の健全化を図る活動

#### (1) 就職支援・進学者に対する環境整備

「給付型奨学金制度の拡充を求める要請文書」を文部科学省に提出した。

⇒ 

|     |
|-----|
| 資料5 |
|-----|

 参照

#### (2) 官庁等への意見表明、要請行動

平成29年度 文部科学省あてに全国高等学校PTA連合会が行った主な意見表明

- ・「教員の働き方改革」についての意見
- ・「キッズウィーク」についての意見
- ・「民法の成年年齢引下げ」に関する意見

### (3) 他の関係団体、機関との連携

文部科学省、内閣府等の省庁、教育関係機関等との情報交換、連携活動を進めた。

イ 平成 29 年度全国高 P 連役員等が就任し、情報交換、意見表明した主な委員

#### 〈文部科学省・内閣府〉

- 牧田会長 「キッズウィーク」総合推進会議構成員  
「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」委員
- 佐野顧問 「中央教育審議会生涯学習分科会」委員
- 相川相談役 「高等教育段階における負担軽減方策に関する専門家会議」委員
- 相川相談役 「専修学校への経済的支援の在り方に関する検討会」委員
- 内田事務局長 内閣府「男女共同参画推進連携会議」委員

#### 〈他の省庁および独立行政法人関係〉

- 牧田会長 (独) 日本学生支援機構運営評議会委員
- 森崎副会長 (独) 大学評価・学位授与機構大学ポートレートセンターステークホルダー・ボード委員
- 金井相談役 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」委員
- 内田事務局長 (独) 日本学生支援機構債券管理、回収等検証委員会委員

#### 〈社会教育団体関係その他〉

- 牧田会長 安心ネットづくり促進協議会副会長
- 牧田会長 AIU 高校生国際交流プログラム実行委員
- 木戸専務理事 (公社) 日本 PTA 全国協議会「広報に関する研究会」委員
- 内田事務局長 (公財) 日本修学旅行協会評議員、(公財) 日本学校保健会評議員  
(公財) 日本教育会理事

ロ 全国高 P 連と連携活動を行った団体・活動

- 内閣府 「子供の未来応援国民運動」
- 総務省・安心ネットづくり促進協議会・(一社) 全国携帯電話販売代理店協会  
「青少年のインターネットリテラシー向上」活動
- 「ILAS 調査」
- 「e-ネットキャラバン (e-ネット安心講座)」
- (公社) 日本 PTA 全国協議会
- (一財) マルチメディア振興センター  
「情報通信の安心安全な利用のための標語」表彰

## 7 賠償責任補償制度の運営に関する活動

### (1) 賠償責任補償制度の現状について

⇒ 資料 6 参照

イ 過去 5 年間加入・事故概況

- ・本年度、保険料改定を実施したが、都道府県市ごとに差異はあるものの生徒加入率 58.12% (+0.16%) と増加傾向にある。
- ・加入生徒数の増加に伴い、保険金支払件数も増加傾向にある。
- ・高額支払済事案は未払事案 (未決案件) も含め自転車による加害事故が大半を占めている。

ロ 平成 29 年度事故状況

- ・1 件あたりの保険金支払平均単価は 71 千円であり前年同水準である。
- ・20 万円未満の少額支払事案は件数構成比の約 90% 超を占めており、本制度の認知度向上の証左

であるとともに、事故への対応に伴う保険金以外のコストの増加要因となっている。

#### ハ 平成 29 年度事故発生傾向

- ・校内以外の事故が約半数を占めている。
- ・対人の事故件数は少ないが高額事案となるケースが多い。
- ・被害の対象はガラス（ボールや体の衝突によるもの）、自動車（自転車の衝突によるもの）が大半を占めている。
- ・被害者区分は学校が半数を占めている。

### (2) 平成 29 年度改定「全国高 P 連賠償責任補償制度」普及啓発活動

- ・自治体の自転車保険加入を義務付ける条例に関連し、「全国高 P 連賠償責任補償制度」が加入義務に値する保険に該当し評価されてきた。
- ・高校の統廃合による解約校が多かった。
- ・創設の理念に照らして全国高 P 連の補償制度であることの有効性・優位性・信頼性の PR 不足により、一部の県で保険会社による募集問題が発生し、解約校が相次いだ。

### (3) 賠償責任補償制度の円滑な業務運営

各都道府県高 P 連事務局と連携し、賠償加入業務、集金業務等のスムーズな進行・運営を行うことができた。

- ・本年度より兵庫県高 P 連が賠償業務・集金事務を新たに開始し順調に運営されている。

## 8 その他この法人の目的を達成するために行った事業

### (1)平成 28 年熊本地震被災地及び東日本大震災被災地の高校生及び PTA の活動支援

イ 平成 28 年 4 月 14 日発生 of 熊本地震被災地への募金活動により、29 年度は最終分として 500 万円を熊本県高等学校 PTA 連合会に寄託した。

ロ 平成 23 年度より継続している東日本大震災被災地への募金活動により、29 年度は第 9 次分として 110 万円を福島県高等学校 PTA 連合会に寄託した。

### (2)他の団体との協力関係

《 平成 29 年度 法人または団体の賛助会員 》

東京海上日動火災保険株式会社

株式会社損害保険ジャパン日本興亜

AIG 損害保険株式会社

三井住友海上火災保険株式会社

株式会社ジェイティビー

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ まなび事業本部 メディアプロデュース統括部

株式会社スクールパートナーズグループ（高校生新聞社）